

川島小学校の今後についての地区別説明会

19時～

- 1 開会（地元総代）
- 2 町長、教育長あいさつ、副町長・職員自己紹介
- 3 説明
 - （1）これまでの経過
 - （2）今後の進め方
- 4 質疑応答
- 5 本日のまとめと御礼（副町長）
- 6 閉会（地元区長）

川島小学校存続の3年間の挑戦

【3年前】

●町立小・中学校あり方検討委員会の提言（H29.9.26）

学級規模を概ね10人とし、その後も増加の見通しがたたない場合、関係校の統廃合について検討を

●町教育委員会の見解（H30.2.21）

川島小学校が該当し、今後議論の対象に

●辰野町総合教育会議 （H30.3.26）

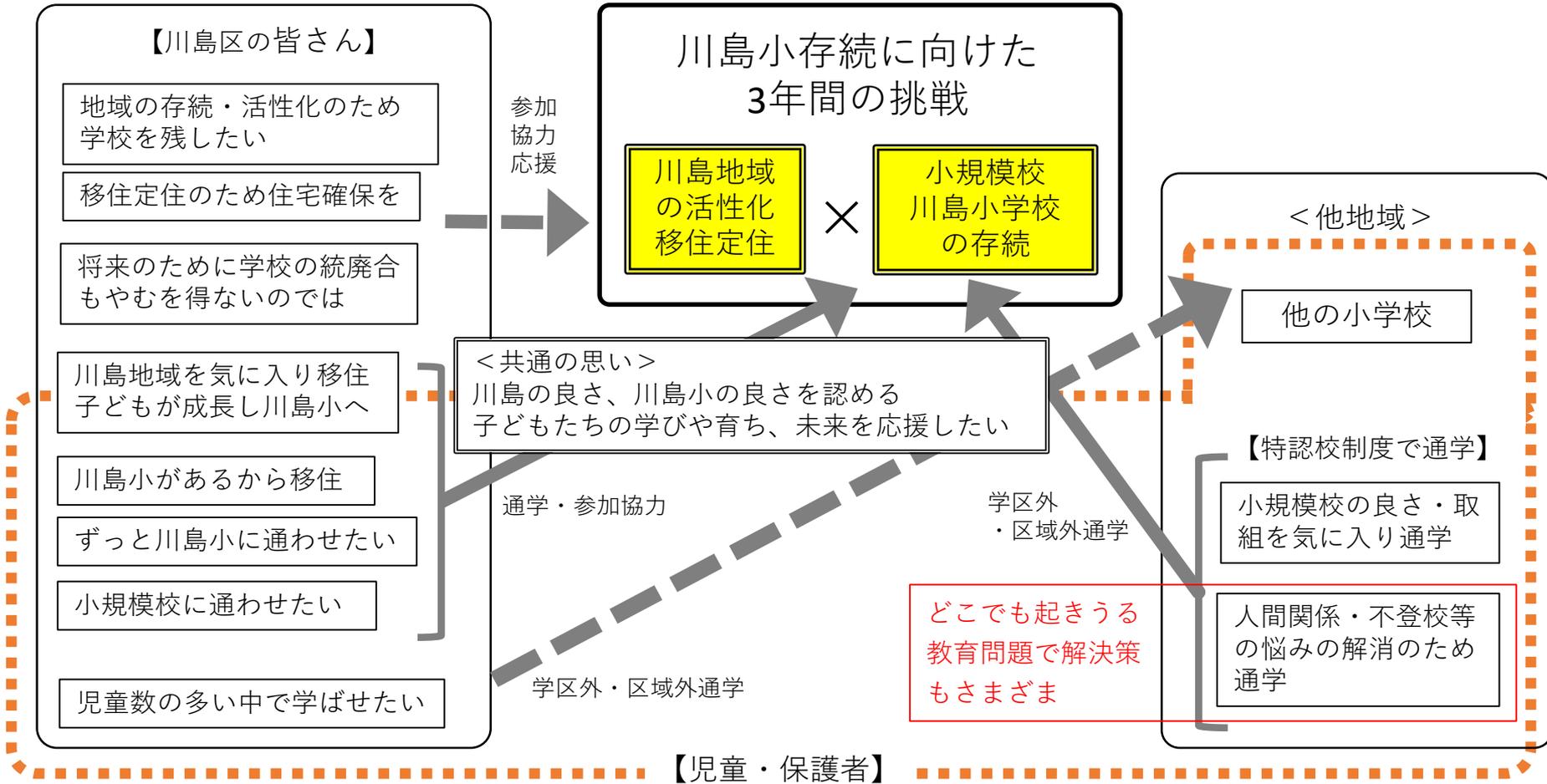
「川島小学校存続に向けての挑戦に
3年間取り組む」ことを表明

背景) ①川島を有力な地区に進めてきた移住政策と川島小を統合対象とすることへの矛盾を感じた
②小学校存続前提に、地域社会の維持・活性化にむけて川島がまとまり取組が進む期待

【3年間挑戦した結果】

	H30	H31・R1	R2	R3	備考（評価）
川島地区への移住 （移住促進策の利用で）	3世帯 11人	3世帯 4人	3世帯 4人	1世帯 2人	移住政策では一定の成果が得られた 空き家成約率も94.1%と町内第1位
児童数の推移 （川島以外から通学）	10名 （6名）	11名 （6名）	12名 （6名）	9名 （5名）	今後の児童数を増加傾向に転じる状況までに 至らなかった

川島小存廃問題を取り巻くそれぞれの思い



今後の進め方

川島小存続に向けた3年間の挑戦

川島小学校存廃問題

存続を断念せざるを得ない

教育委員会と意見を合わせて終結
新しい段階へ

継続→発展

町全体で

新たな課題として

教育問題として各家庭と

川島区の活性化
移住定住の推進

- ◆ 地域の課題として移住政策を推進
- ◆ 長野県移住モデル地区川島区：学区統合でも継続認定可（県）

地域とともに町長と教育委員会が連携して検討

新たな学びの場の検討

- ◆ 地域と一緒に検討（継続のために地域主体の検討が必須）
例)
 - ・ 世代を超えた体験学習、交流活動の場
 - ・ 公民館講座や生涯学習の拠点
 - ・ 特定の目的の教室
 - ・ 放課後・休日に子どもが集う場

川島小学校の今後

- ◆ 児童の気持ち・状況に沿った配慮と適切な支援が必要
 - ◆ 児童・保護者と話し合いを進める中で具体的な内容を議論・検討
- (統合が決定しても実施には2～3年以上かかる)

人間関係・不登校等の悩みの解消

- ◆ 町全体の教育課題として議論・検討

保護者等の声を聞き総合教育会議等を通じ教育委員会と町長と一緒に検討